

生活改善アプローチに関する対話セミナーのご挨拶(仮訳)

2025 年 3 月 21 日 サンホセ

JICA コスタリカ

所長 吉田 憲

おはようございます。

マリエラ・マリン・メナ副保健大臣

ベルニー・ビジャリアル・コルテス博士

保健総局長 ロベルト・マドリガル・アバルカ氏

メンタルヘルス技術事務局長

国際協力担当のジェニフェル・ウガルデ氏

保健省のシルビア・ゴンザレス・ビジャロボス博士（サラピキ地域保健責任者）

JICA 専門家である太田美帆教授

ご招待された皆様

保健省および各自治体を含む他の公的機関の皆様

ご挨拶申し上げます。

私は吉田憲と申します。JICA コスタリカ支所の所長を務めております。

ご存じの方も多いかと思いますが、「生活改善アプローチ」は、日本の戦後に実施された生活改善プログラムの概念と方法論を包括的に見直した結果として生まれたものです。このアプローチは、地域住民が日常的な問題を特定し、利用可能な資源を活かしてそれを解決する取り組みを重視しています。

この点において、JICA の生活改善分野の専門家である太田美帆教授のご訪問の調整をしていただき、心より感謝申し上げます。先生にはこのアプローチの内容と応用について、非常にわかりやすくご説明いただけると思います。

JICA は、この生活改善アプローチが、保健省とメンタルヘルス技術事務局が主導するプロジェクトの一環として取り入れられ、住民の健康の決定要因に影響を与えることを目的としていることを、大変光栄に、また嬉しく思っております。この革新的な生活改善プログラムの展開が、コスタリカの人々にとって総合的な恩恵をもたらすと確信しています。

興味深いことに、この講座の参加者数は 2024 年までに 450 人を超えました。彼らは現在、自国で生活改善活動を実践しており、コスタリカ出身の元研修生の中にも、この素晴らしいプロジェクトを実行している方々がいます。

複数の国々では、この生活改善アプローチが組織に制度化され、公共政策やプロジェクトにも反映されてきました。このプロジェクトも、公衆衛生の分野において非常に興味深い形で応用されています。

この講座の参加者の皆さんの献身と取り組みによって、コスタリカ国内にも優れた生活改善の実践例が生まれています。皆さんはこのアプローチの具体例に触れる機会があったかと思います。

最後になりますが、保健省、自治体、その他の公的機関の皆様に、生活改善アプローチを信じ、支援していただいている

ことに深く感謝申し上げます。本日の対話セミナーが、皆様にとって有益なものとなることを願っております。

皆様のご成功をお祈り申し上げます。ありがとうございました。